

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉県立流山おおたかの森高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

所在地 〒 270-0122
千葉県流山市大畔275-5

E-mail k.n.otaka-h1@chiba-c.ed.jp

Website http://www.chiba-c.ed.jp/n.otaka-h/

幼児児童生徒数 男子 419名 女子 671名 合計 1090名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、「ユネスコスクールとしてのESD推進全体計画」を作成し、分掌、学年、教科指導などあらゆる教育活動において、ESDを推進している。

①国際理解活動

- ・生徒、職員対象グローバル教育講演会及び生徒による諸活動発表会等の実施
- ・「人間力を育む千葉ESD」地域活動等ユネスコスクールESD活動参加
- ・「沖縄、グアム（台湾）修学旅行」における平和学習と国際理解及び交流活動
- ・「オーストラリア短期留学」とレッドリンチ高校との友好校締結
- ・オーストラリア高校生等海外留学生、職員の受入れ交流活動
- ・東京海洋大学高大連携事業プロジェクトでプレゼンテーション
- ・神田外語大学東南アジア小論文コンテスト応募
- ・ESD国際交流プログラム生徒推薦
- ・韓国職員招聘事業参加及び受入れ
- ・マレーシア、カンボジア、韓国等派遣事業参加者推薦
- ・「流山市青少年主張大会」においてグローバル社会への思いを発表

- ・「留学生が先生」と題し、1年生全クラスで麗澤大学の留学生と交流
- ・「グループトーク」を大学の留学生たちと実践
- ・「アメリカンサマーキャンプ」、「グローバルビレッジ」で外国人と英語漬けの合宿



「青少年の主張」をスピーチ



留学生が自国の文化を紹介



「サマーキャンプ」での一場面

②地域貢献・参加活動

- ・創立10周年記念式典への取組
- ・高校生による小学校への英語の出前授業「高校生が先生」
- ・野田市立小学校土曜英語授業年間ボランティア参加
- ・美化委員会、運動部による地域清掃活動で環境と心を磨く
- ・小中高地域挨拶運動、スマートサイクルの実施
- ・地域交流行事参加（市民祭り等の伝統行事、公民館・福祉施設行事、特別支援学校・小・中学校行事等）運營業務補助、ボランティア活動、演奏・演技披露
- ・小学生町探検受入れ、中学生の高等学校見学受入れ及び体験授業の実施
- ・パラスポーツフォーラムボランティア参加
- ・流山市ロードレースボランティア
- ・近隣大学教職課程大学生ボランティア受入れ
- ・流山市高校生議会参加
- ・未成年飲酒防止キャンペーンボランティア参加
- ・開かれた学校づくり委員会、ミニ集会における地域への活動報告



隣接する小学校での活動



小学生が本校を訪問



「高校生会議」にて



小学生と1対1で英語の発音練習を指導

③社会貢献

- ・「服のちからプロジェクト」において、校内のみならず近隣地域、近隣の小中学校にも呼びかけ、世界の子どもたちのために古着を段ボール13箱分回収。

「服を着ることが命を守る」「服は人としての尊厳を守る」ことを学び、衣服の有り難さを再認識



小学校で協力を呼びかけ



集まった子供服とポーズ

④教科指導

- ・ 模擬投票、政策公聴会、地域フィールドワークなど体験型授業の導入
- ・ 認知症サポーター講習会等への積極的な参加
- ・ 歯科衛生教育
- ・ 障害者交流
- ・ 人権講話の実施
- ・ アクティブラーニングなど生徒主体の学習（主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善）の推進
- ・ 部活動その他の教育活動
- ・ 家庭科の授業で「フェア・トレード」を学習



保護者と生徒が『高齢者』を疑似体験



「フェア・トレードとは？」を学習
バナナ生産者の立場を考える

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度

<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 有志参加)

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「マジカルバナナ V3」 特定非営利活動法人 地球の木

- ②ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>ユネスコスクールとして学校全体でESDを推進しグローバル人材の育成を目指す取組をとおしてこれからの時代を生きていくために必要な力をつけていくことを、本校の重点目標のひとつとしている。様々な教育活動をESDの視点から捉え直し、職員及び生徒の研修を継続しながら、学校全体が同じベクトルで教育実践することで効果をあげるために、「ESD教育の全体計画」を年度当初に作成している。国際コミュニケーション科を擁し、異文化理解教育に力を入れていることから、英語をはじめコミュニケーションツールとしての言語習得を目指した教育課程を編成している。生徒主体となる授業に向け、定期的なアンケートの実施により、生徒や保護者のニーズや授業効果の把握につとめ、継続して講演会及び研修会を行うことで意識を高めている。</p>
--

- ③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

<p>「ユネスコスクールとしてのESD推進全体計画」を策定し、年度のスタートから学年、分掌など様々な立場から、教育活動を捉え直し、ESDを意識した取組を行うこととしている。ボランティア活動、地域交流活動などの成果を全校生徒の前で発表する機会を定期的に設け、ESD活動の推進に効果を上げている。積極的に交流事業に応募すると共に、体験学習を推奨することに加え、学校生活の中心となる授業において、生徒が主体的に関わることができるよう、全職員で改善に努めている。</p>

- ④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESD 成果発表会などに積極的に参加し、他校の取組に触れる中で、自らの活動を見つめ直す機会となった。学校評価アンケートを生徒、保護者、地域、職員に対して実施し、意欲や主体性をもった活動となっているかを検討している。講演会や行事を実施する前後において、ESD の視点からアンケートをとり、活動の質の向上に努めている。活動に主体的に関わった生徒からは、自らの成長を認識できたというような感想が多くみられた。ただ保護者や地域に対しては、ESD 活動の周知が必要であると感じている。

- ⑤ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

人とのつながりを大切にする教育方針に基づいて様々な活動を行い、それを発信することで、本校の人間教育の理解が深まり、生徒募集に効果が上がっているように感じている。千葉県の魅力ある学校づくり大賞に応募したり、HP で活動を紹介したりすることで、確実に魅力ある学校をアピールできる。連携活動を通じて新たな連携も生まれ、連鎖していく効果もあるようである。

- ⑥学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

千葉大学 ESD 事業や麗澤大学との高大連携イベントなどにより、高等学校だけでは出会うことのない様々な人々との交流が可能となっている。東京海洋大学高大連携プロジェクトでのプレゼンテーションの機会を得て、広い視点で日本や世界の課題について考えることができ、貴重な体験となった。地域の社会福祉協議会や自治会の依頼による交流活動で、ボランティアや日頃の部活動の成果を発表する場も与えられている。積極的に地域と共に歩む教育活動を継続していきたい。

⑦国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度においては、国内外のユネスコスクールとの交流会や相互事業の実施には至っていない。しかし来年度に関しては、千葉大学 ESD 研究会に参加している高校との意見交換会や、生徒会メンバー同士の交流会等を検討中である。また海外のユネスコスクールとの交流に関しては、友好校契約を交わしたオーストラリア・レッドリンチカレッジを介してクィーンズランド州の高校とのネットワーク形成を模索していきたいと考えている。

⑧ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

学校の中に閉じこもり机上の学習のみを受動的に行うのではなく、ユネスコスクールとしての活動をすることによって、日常の生活だけではできない体験や、人々との交流、自己表現の場を得ることができ、教育の質の向上がはかれる。人間教育の目的を明確にすることで、社会性や主体性を育み、グローバル化の進む世界の中で生きていく力をつけていく方向性を職員が共有し、教育課程の編成にも工夫が見られるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- | | |
|-----|---|
| 4月 | ・「グローバルビレッジ」で国際コミュニケーション科1年生が英語合宿 |
| 5月 | ・小中高地域挨拶運動、スマートサイクルの実施 |
| 6月 | ・「留学生が先生」と題し、1年生全クラスで麗澤大学の留学生と文化交流会
・高校生による小学校への英語の出前授業「高校生が先生」 |
| 7月 | ・「オーストラリア短期留学」レッドリンチ高校を訪問 |
| 8月 | ・認知症サポーター講習会 |
| 9月 | ・オーストラリア・レッドリンチ高校生徒、職員の受入れ |
| 10月 | ・生徒、職員対象グローバル教育講演会の実施
・小中高地域挨拶運動、スマートサイクルの実施 |
| 11月 | ・「沖縄、グアム(台湾)修学旅行」における平和学習と国際理解及び交流活動
・「グループトーク」麗澤大学の留学生たちと国際コミュニケーション科1年生が交流会
・高校生による小学校への英語の出前授業「高校生が先生」 |
| 1月 | ・高校生による小学校への英語の出前授業「高校生が先生」 |
| 2月 | ・小中高地域挨拶運動、スマートサイクルの実施 |
| 通年 | ・野田市立小学校土曜英語授業、指導補助 |